# ３節 国際放送

国際放送は，世界の人々の日本に対する理解を深め，国際的な文化・経済交流の発展を促し，ひいては国際親善と人類の福祉に貢献することを目的としている。

テレビ国際放送（NHKワールドTV）は，95年４月から，北米，欧州向けに開始した。98年４月からは，デジタル化によって，アジア・太平洋地域にも日本語，英語で１日18時間の放送を開始し，10月からは，ほぼ全世界向けに拡大した。

99年４月からは，１日の放送時間を19時間とし，10月からは24時間放送を開始した。

01年８月には，送信衛星を変更して，それまで受信できなかったアフリカ南部地域でも視聴が可能となり，NHKワールドTVは世界中をカバーすることになった。08年10月に，外国人向け放送のNHKワールドTVは英語化率100％を達成した。また，邦人向け放送はNHKワールド・プレミアムチャンネルを活用して，国内放送のニュース・情報番組に加え，娯楽を供する番組など，より多彩な番組編成を実現し，ノンスクランブルでの新しい放送を開始した。

さらに，09年２月に番組改定を行い，NHKワールドTVでは，英語ニュースを大幅に拡充し，国際放送局に新しく作ったニュース専用スタジオから24時間毎正時に編成するとともに，日本やアジアの情報を伝えるさまざまな番組についても，世界各地の好適視聴時間帯を強く意識した編成を実現した。09年４月より外国人向けテレビ国際放送の充実のために，新たに設立した日本国際放送（JIB）と連携して，日本の魅力を伝えた。インターネットでは，24時間動画配信を開始し，ニュースと国際放送局制作番組を放送と同時に配信している。

テレビ国際放送は，14年３月末現在，２億7,742万世帯が受信可能である（一部，時間視聴可能世帯を含む）。

NHKの短波によるラジオ国際放送は，1935年に「海外放送」として開始した。戦後に一時中断，52年に「ラジオ日本」として再開した。

日本語と英語で放送する「全世界向け放送」（ジェネラル・サービス，一般向け放送）と，地域ごとの言語で放送する「世界各地域向け放送」（リージョナル・サービス）と合わせて，07年度前半期は22言語で，１日65時間放送した。海外発信が欧米を中心に短波放送からテレビにシフトしていくのに伴い，07年度後半期には，短波放送の送信地域と送信時間を見直し，「全世界向け放送」を廃止して，地域に応じた効率的な情報発信を進めた。また，ドイツ語，イタリア語など４言語を廃止し，18言語に縮小した。

一方，短波放送以外の新たな放送サービスとして，外国の放送事業者などが所有する送信施設を借用し，中波・FM波による放送サービスを拡充している。また，06年度後期より，衛星を使用したラジオ国際放送を行っている。

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットにより国際放送のニュース等の提供も積極的に行っている。

## 放送番組の編成

国際放送番組の編成は，年度ごとに「編集の基本計画」で編成方針，重点事項など基本事項を定める。この基本計画に基づき「放送番組編成計画」を策定し，新番組の概要，編成時間などの具体的な計画事項や，放送番組時刻表を定めている。

国際放送番組審議会は，「基本計画」の諮問に対して答申するなど，放送番組の適正を図るため必要な事項を審議し，番組の編成や制作に役立てることを目的としている。

### Ⅰ．国際放送の放送番組編集の基本計画

海外の視聴者からの投書，番組内容についてのモニターや短波の受信状況についての技術モニターの報告，各種の調査などを参考にしつつ，13年度の番組提案を基に13年度の番組編成を検討し，「平成25年度国際放送番組編集の基本計画」の原案を策定した。原案は12年12月中旬の国際放送番組審議会に諮問し，了承するとの答申を受け，13年１月中旬の経営委員会で議決承認された。

以下に原文どおり掲げる。年表示は西暦にし，記号などは本書の方式に合わせた。

#### １．編集の基本方針

日本が国際社会で一層信頼される地位を占めるために，世界に向けた情報発信がこれまで以上に重要となっています。13年度のNHK国際放送「NHKワールド」は，３か年の経営計画で掲げた『国際発信力の強化』の実現に向け，ニュースの大幅な拡充と番組の質の向上を進めます。

英語のテレビ放送「NHKワールドTV」では，

24時間にわたって日本からの情報発信を強化するため，ニュースの放送時間を大幅に拡大します。また，世界に広がる取材網を最大限生かし，アジアそして世界の動きを，日本の観点を踏まえて的確に伝えます。さらに，日本の様々な魅力や最先端の動きを，多彩なジャンルの番組で紹介します。日本発の信頼される情報源として，テレビ，ラジオに加えて，インターネットへの取り組みを一層推進し，「NHKワールド」の発信力をさらに高めます。

## ２．編集の重点事項と各波の編集方針

### （１）テレビジョン国際放送

**○NHKワールドTV（英語・外国人向け放送）**

**・毎正時のニュースを30分に拡大・強化**

日本時間午前２時台から７時台まで15分の短縮版だった平日のニュースを，他の時間帯同様30分化し，24時間いつでも最新の情報を伝えていきます。また，北京発の中国情報の充実を図るのをはじめ，海外の拠点からの発信を一層強化します。

**・番組の多様化とさらなる質の向上**

12年度に多様化した番組ジャンルの充実を図るとともに，視聴者の意向も踏まえながら各番組の改善を図ります。また，日本が強みを持つ産業技術の現場や，近年，日本人が世界的に活躍しているデザイン・建築分野を紹介する番組を新設し，ラインナップをより充実させます。

**・震災を乗り越えて未来に向かう日本の姿を海外に発信**

東日本大震災からの復興と再生に向けた地域の取り組みや産業の動向，新しい生き方や社会のあり方を探る人々の姿を，ニュースや番組で伝えていきます。

〔放送時間〕

世界全域…１日23時間以上が基本

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上を編成します。

**○NHKワールド・プレミアム（日本語・在外邦人向け放送）**

**・最新のニュース・情報番組**

国内で放送するニュース番組や情報番組，東日本大震災からの復興と再生への取り組みを伝える番組のほか，海外の動きを伝えるニュース番組を新たに加え，国内外の情報発信を充実させます。

**・「安全」と「安心」を支える情報**

海外で暮らす日本人や旅行者の重要なライフラインとして，内外で起きた大規模な地震，津波などの自然災害や，事件・事故などの緊急事態発生時には速やかにニュースを特設するなど，的確・迅速な情報の提供に努めます。

〔放送時間〕

世界全域に向けた同一の番組編成…１日およそ５時間

北米・欧州地域に向けた，現地の生活時間にあわせた番組編成…各１日およそ５時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組80％以上，インフォメーション番組５％以上，娯楽番組を若干編成します。

### （２）ラジオ国際放送

**○NHKワールド・ラジオ日本**

**〔多言語・外国人向けサービス〕**

**・地域の特性に応じた多様な放送サービスの推進**

各地域の実情に合わせて放送枠を新設・移設するとともに，短波だけではなく中波・FM波や衛星ラジオでの再送信，インターネットなど，地域の特性に応じたメディアを積極的に開拓します。

**・ニュース・番組の充実**

災害などの緊急時には機動的な編成に努め，最新のニュースを的確・迅速に伝えます。番組では幅広い情報を多角的に伝えるなど，一層の充実を図ります。

〔放送時間〕

17言語・合計…１日あたり34時間10分

短波24時間40分，中波・FM６時間15分（短波と重複する放送時間を除くと４時間45分），衛星ラジオ31時間10分（短波，中波・FMと重複する放送時間を除くと４時間45分）

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上を編成します。

**〔日本語・在外邦人向けサービス〕**

**・最新のニュース・多彩な番組の提供**

国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなどの番組を国内と同時に放送し，日本の多彩な情報を伝えます。

〔放送時間〕

日本語…１日あたり24時間

短波20時間，衛星ラジオ24時間（短波と重複する放送時間を除くと４時間）

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上，娯楽番組を若干編成します。

### ３．インターネット

**○NHKワールド・オンライン**

**・ホームページの情報性と利便性の向上**

NHKワールド・オンラインはニュースページを中心に改善を進めます。より情報性を高め，アクセス数増を目指します。また，番組情報をより充実させて，おすすめの番組をわかりやすく提示するなど，番組の視聴につながる取り組みを強化します。

**・接触機会の拡大**

モバイル端末向けアプリやスマートTV向けアプリの開発・改善を積極的に進め，インターネットを通じて世界中で簡単に「NHKワールド」に接してもらえるよう最新のIT技術を活用します。

## Ⅱ．国際放送番組審議会

13年度は11回開催された。会長の諮問に応じて，「平成26年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について審議し答申したほか，定時番組，特集番組などについても審議し放送番組の適正化を図った。

13年度の主な審議内容は次のとおり。

４月　NHKワールドTV『Artisan×Designer』『Core Kyoto』について

５月　NHKワールドTV『Asia This Week』『NEWSLINE・リポート選』について

６月　NHKワールドTV『DESIGN TALKS』『J-Architect』について

７月　NHKワールドTV『J-TECH Innovation & Evolution』『TOMORROW』について

９月　NHKワールド・ラジオ日本『伝統の相撲界に旋風を巻き起こせ』について，スワヒリ語放送独自番組・SMS企画『お話つくろう！』について

10月　NHKワールドTV『NEWSLINE』『NEWSLINE・リポート選』について

11月　「平成26年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について
NHKワールドTV『great gear』について

12月　「平成26年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について（諮問・答申）
NHKワールドTV『NEWSLINE』『ASIA BIZ FORECAST』について

１月　「新年度のNHKワールドTVの番組」について
NHKワールドTV『Train Cruise』について

２月　「平成26年度国際放送番組編集計画」について
NHKワールドTV『ASIAN VOICES』『NEWSLINE・リポート選』について

３月　「2013年度民放番組英語化　BROADCASTERS' EYEの放送」について
NHKワールドTV『SPORTS JAPAN』『NEWSLINE・リポート選』について

# 番　組　制　作

## Ⅰ．テレビジョン国際放送

### （１）外国人向け放送

24時間毎正時の英語ニュース『NEWSLINE』は，日本国内の情勢を世界に伝えるのみならず，国際情勢についても多角的に報道した。東日本大震災からの復興，第23回参議院議員通常選挙，東京都知事選挙，2020年オリンピック開催都市決定等，国内外の重要ニュースについては，放送枠の拡大や特設によって機動的に伝えた。また，日本時間の平日午前２時台から７時台までの時間帯の放送枠を28分化し，北京発の中国情報の充実を図るなど，海外の拠点からの発信を一層強化した。

定時番組では，国際放送独自制作の番組として，デザインが持つパワーや可能性を楽しむ『DESIGN TALKS』，京都の魅力を紹介する『Core Kyoto』，日本とアジアの１週間の動きをまとめて伝える『Asia This Week』等を新設したほか，国内放送番組の映像素材を活用し，外国人向けに構成や演出を変えた『WILDLIFE』等を新設した。また，東日本大震災からの復興に向けた各地の取り組みを紹介する『TOMORROW』を新設するとともに，『March to Recovery』，東日本大震災をテーマにした『NHKスペシャル』の英語化放送にも継続して取り組んだ。

特集番組は，毎週の『WORLD TV SELECTION』枠を中心に多彩な番組を編成した。パン・ギムン国連事務総長と３人の専門家がアフリカの課題と開発について語り合う『Rising Africa：Dialogue for developing a hopeful continent』，観光列車で日本の旅を満喫する『Train Cruise』，異国の地で活躍する日本・中国・韓国の人たちが隣人同士として将来の課題などについて討論する『Beyond Borders：Japan, China and South Korea』，アジアの放送局が制作したドキュメンタリー番組『The Forgottens』，国内

の民間放送局が制作したドキュメンタリー番組を英語化した『BROADCASTERS' EYE』等を放送した。

また，東日本大震災から３年の節目に，「音楽にできること」をテーマに世界各地で開催されたチャリティーコンサートのもようを伝える『Music for Tomorrow』を３回シリーズで放送した。

**（２）邦人向け放送**

１日およそ５時間『NHKニュースおはよう日本』『NHKニュース７』『ニュースウオッチ９』『クローズアップ現代』などの報道番組に加え，『NHKのど自慢』『バラエティー生活笑百科』などの娯楽番組を国内と同時に放送した。また，『ワールドWave　トゥナイト』『目撃！日本列島』を新設した。

第23回参議院議員通常選挙および東京都知事選挙の開票速報や，2020年オリンピック開催都市決定，STAP細胞関連の特設ニュース等を，国内と同時放送し，海外で暮らす日本人や旅行者に迅速な情報を提供した。

**◇在外邦人向け日本語放送の特集・特別番組**

（T国際独自の注記がないものはすべてG同時）

4.13『緊急ニュース』「淡路島で震度６弱の地震」／4.16『特設ニュース』「イラン・パキスタン地震関連」／4.17『国会中継』「党首討論～国家基本政策委員会合同審査会」／4.19『安倍首相記者会見』／4.26『首都圏スペシャル』「発酵漫遊記スペシャル　お宝発酵食を発掘せよ！」／4.29『日ロ首脳共同会見』／6.3『TICAD共同会見』／6.9『ご結婚20年　皇太子さま　雅子さま』／6.23『平成25年沖縄全戦没者追悼式』／6.23『東京都議会議員選挙　開票速報』／6.26『安倍首相記者会見』／6.29『迫る参院選　選挙を考えてみませんか』／6.29～7.13『参院選在外選挙告知』（T国際独自）／7.3『党首討論会』／7.4『ニュース』「参院選公示」／7.7『参院選特集』「党首討論」／7.14『参院選特集』「争点を問う」「参院代表に問う」／7.20『参院選特集』「党首　夏の陣～密着17日間の熱い戦い」／7.21『参院選2013　開票速報』／7.22『参院選2013　開票速報～列島ドキュメント』，『討論スペシャル』「徹底討論　日本政治はどう動く」／7.23『クローズアップ現代スペシャル』「検証・ネット選挙」／7.26『首都圏スペシャル』「夏山へGO！2013～達人と楽しむ日本の名峰」／8.4『特設ニュース』「東北で震度５強の地震」／8.6『平成25年　広島平和記念式典』／8.9『平成25年　長崎平和祈念式典』／8.15『全国戦没者追悼式』／8.30『首都圏スペシャル』「地震火災から命を守る～関東大震災90年」／9.1『特集・明日へ　支えあおう』「被災地の今を知っていますか？」／9.8『いよいよ決定！2020年五輪開催都市』／9.19『特設ニュース』「福島県で震度５強の地震」／9.27『首都圏スペシャル』「おもい出映画館～フィルムがつむぐ物語」／10.1，10『安倍首相記者会見』／10.15『国会中継』「所信表明演説」／10.16『ニュース』「台風26号」／10.25『首都圏スペシャル』「聞こえますか、子どもたちの“心の声”が」／10.26『ニュース』「東北・関東で震度４，津波注意報」／11.17『安倍首相記者会見』／11.29『首都圏スペシャル』「平成四半世紀　東京」／12.4『国会中継』「党首討論～国家基本政策委員会合同審査会」／12.9，14『安倍首相記者会見』／12.19『特設ニュース』「猪瀬東京都知事辞任」／12.23『天皇誕生日　傘寿を迎えられて』（T国際独自）／12.27『ニュース』「沖縄県・仲井真知事会見～普天間基地移設問題関連」／12.28『ニュースハイライト2013』（T国際独自）／1.2『さわやか自然百景　新春特集』「水の国　日本」／1.4『あ～幸せ♪うまいッ！ものだらけの新春スペシャル』／1.6『総理記者会見』／1.24『国会中継』「政府演説～施政方針演説」／1.31『首都圏スペシャル』「菜の花ラインに乗りかえて～千葉発地域ドラマ」／2.8～25『ソチ五輪ハイライト』（T国際独自）／2.8『安倍首相記者会見』／2.9『東京都知事選挙開票速報』／2.28『首都圏スペシャル』「ふるさとを遠く離れて～原発事故　避難者の３年」／3.1『NHKのど自慢チャンピオン大会2014』／3.9『震災から３年　特集　明日へ～支えあおう』／3.10『安倍首相記者会見』／3.11『情報まるごと～東日本大震災追悼式』／3.20『安倍首相記者会見』

## Ⅱ．ラジオ国際放送

13年度の外国人向け放送の放送時間は，17言語合わせて，１日当たり34時間10分。邦人向け日本語放送の放送時間は，１日当たり24時間。外国人向け放送と邦人向け放送を合わせると，18言語で，１日延べ58時間10分の放送を実施した。

このうち，中波・FM波は８言語で，１日当たり前期は４時間15分，後期は５時間15分放送した（短波と重複する時間を除く）。また，衛星ラジオでは極東ロシア，アジア大陸，東南アジア，南

西アジアに向けて中国語・タイ語など10言語で，欧州および中東・北アフリカに向けて英語・アラビア語など８言語で，また，世界ほぼ全域に向けて日本語・英語など18言語で，合わせて１日当たり前期は９時間15分，後期は８時間45分放送した（短波，中波・FM波と重複する時間を除く）。

**（１）外国人向け放送**

外国人向け放送では，地域の実情に合わせ，インドネシア語の放送枠を聴取好適時間帯に移設したほか，ウルドゥー語で中波・FM波によるサービスを充実させた。

ニュースは，13年度も外国人向け放送では９分と14分のニュース枠を継続し，東日本大震災からの復興，第23回参議院議員通常選挙，東京都知事選挙，2020年オリンピック開催都市決定等の国内ニュースをはじめ，世界のニュースを，日本の視点を踏まえて伝えた。なお，『英語ニュース』『スペイン語ニュース』『中国語ニュース』『ハングルニュース』『ポルトガル語ニュース』はラジオ第２でも継続放送。

『ラジオジャパンフォーカス』においては，通年で学ぶ「やさしい日本語」をはじめ，日本の科学技術の最新情報を伝える「テクノ&ビジネス」「ニッポンQ&A」「読み聞かせ文学館」「Welcome to Amazing Japan！」等のコーナーを放送した。英語放送では，リスナーとの交流を目指す『Friends around the world』をラジオ第２と同時放送した。

特集番組は，『核のゴミのゆくえは』『音楽遊覧飛行ワールドワイド』『We love Japanese songs！ 2014』等を放送した。また，ベトナムとの国交樹立40周年や，日中平和友好条約締結35周年，インドネシア語，タイ語放送60周年の節目の年にあたり，それぞれの言語で特別番組を放送した。

**（２）邦人向け放送**

邦人向け放送においては，国際放送局が制作する日本語ニュースや海外安全情報に加え，国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなど，多彩な番組を国内と同時放送し，リアルタイムで国内外の最新情報を伝えた。このほか『ちきゅうラジオ』『大相撲中継』『真打ち競演』『上方演芸会』『第64回NHK紅白歌合戦』等をラジオ第１との同時放送および時差放送で行った。また，特集番組として『音楽遊覧飛行ワールドワイド』を制作し，日本国内でも放送した。

# Ⅲ．インターネット展開

## ◇概況

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットを通じて，国際放送のニュース・情報番組等の提供を行っている。インターネットは，従来のテレビ，ラジオと並ぶ発信の３つの柱と位置づけて，「NHKワールドTV」や「NHK ワールド・ラジオ日本」のライブストリーミングを実施するなど，有効利用を図っている。

## １．テレビ関連サービス

**（１）ホームページでのサービス**

13年度，ホームページでは，４月から英語ニュース『NEWSLINE』の企画・リポートの動画掲載を，９月から最新の為替・株式指標と世界44都市の天気の表示を開始した。また，アフリカ開発会議（TICAD，６月），参議院議員選挙（７月），中国全人代（３月），3.11特別企画（３月）など，独自インタビューや動画などを掲載する，専用のニュースページを制作した。１月より，英語ニュース記事の掲載期間を従来の24時間から72時間に延長した。

番組関連では，10月にNHKワールドTVの特集番組すべてを月ごとに紹介するホームページを新設するとともに，特集編成『VIEWERS' CHOICE THE BEST OF 2013』（12月），『We love Japanese songs！ 2014』（１月），『東日本大震災から３年』（３月），『BROADCASTERS' EYE』（３月）に合わせて専用のホームページを開設した。

13年度のNHKワールド・オンラインのホームページのアクセス数は，１億2,442万ページビューであった。

**（２）ストリーミングでのサービス**

NHKワールドTVのライブストリーミング（放送と同時のインターネット配信）は09年２月から開始した。これは放送法第20条第２項第５号に基づく業務である。13年度は，ホームページ上で提供しているNHKワールドTVのライブストリーミングをiPad，iPhoneでも視聴できるように機能を拡張した。

## ２．ラジオ関連サービス

### （１）ホームページでのサービス

ラジオ日本では，テキストニュース，ニュース動画なども公開している。概要は次のとおりである。

○ニュース音声（18言語）
・ライブストリーミング（放送と同時配信）
・オンデマンドストリーミング
・ポッドキャスティング（日本語を除く）
○テキストニュース（10言語）
・アラビア語，中国語，フランス語，インドネシア語，ハングル，ポルトガル語，ロシア語，スペイン語，タイ語，ベトナム語

14年１月より，ベンガル語，ペルシャ語，ウルドゥー語のテキストニュース配信を試行的に開始した。

・災害等 緊急時は随時更新
○ニュース動画（中国語）
・１日１回（月～金）更新
○企画動画
・中国語　週２回（火・金）更新
・ポルトガル語　週１回（金）更新
○番組音声（18言語）
・ライブストリーミング（放送と同時配信）
・オンデマンドストリーミング
・公開期間は放送後１週間
・日本語は『海外安全情報』（ライブ，および一部時差／オンデマンド），『ちきゅうラジオ』（ライブ）のみ
○番組特設ページ（17言語）
・『やさしい日本語』
・『Let's Cook Japanese』（料理番組）
・『Welcome to Amazing Japan』（旅番組）
・『特集・日本の昔話』（９言語）
・『We love Japanese songs！ 2014』（６言語）

### （２）ストリーミングでのサービス

ラジオ日本についても，放送法第20条第２項第５号に基づきライブストリーミングを提供，同２号に基づきオンデマンドで音声を提供している。ホームページでの提供のほか，13年度はAndroid端末向け聴取アプリを開発し，12年度に開発したiPhone向けアプリと併せて幅広い機器での視聴を可能とした。

### （３）その他のサービス

NHK読み上げ版携帯サイトに英語，中国語，ハングル，ポルトガル語，スペイン語でニュースを配信している。

# 広報・反響

## Ⅰ．広　報

### ◇概況

NHKワールドTVについては，国内外に向けたさまざまなプロモーションも展開した。ラジオ日本では，海外でのイベント開催に加え，ネット広告も実施した。

### ◇PR

## １．NHKワールドTV関連の主な動き

６月　横浜で開催されたTICAD（アフリカ開発会議）本会議場前にブースや専門モニターを設置，出席した各国代表団に広報活動を展開

７月　フランス・パリで開催された「ジャパンエキスポ」にブースを出展，日本のアーティストやアートデザイナーによるイベントも行った

９月　広報番組『CHOICE OF THE WEEK』の司会に10月より女優・モデルのすみれを起用。初回収録に合わせ取材会を実施，スポーツ紙５紙等が記事掲載

10月　「J-MELO」が放送400回を迎えるにあたり，出演のつんく♂，モーニング娘。が出席する記念の取材会を実施，スポーツ紙等15紙がウェブ記事を掲載

12月　関根麻里，デーモン閣下などが出演する国内向け30秒スポット６本シリーズを総合・Eテレ・BS1で放送開始（15年度も継続）

２月　日本を発着するANA国際線の旅客機の機内で30秒PRを上映（３月にJAL国際線でも実施）

３月　アメリカ・ニューヨークの全国ネット局・ケーブル局のスポット枠で新作30秒PRを放送。インターネット広告も併せて実施（４月下旬まで）
新東京国際空港第１ターミナルにNHKワールドTVの電気額面広告２枚を設置

## ２．ラジオ日本関連

９月　インドネシア・バンドンでリスナーイベントを開催し，インドネシア語放送60周年記念番組として公開収録

10月　ベトナム・ホーチミン市でリスナーイベントを開催し，日越国交樹立40周年記念番組として公開収録
11月　タイ・バンコクでリスナーイベントを開催し，タイ語放送60周年記念番組として公開収録
１月　ペルシャ語放送ホームページのバナー広告をイラン・ベルギーのペルシャ語ニュースサイトに掲載

**（１）インターネット**

NHKワールド・オンラインのトップページと17言語の各ページにおいて，重点番組等の告知を行った。13年10月からポルトガル語放送がツイッターで番組宣伝を開始した。

14年１月より，ペルシャ語のテキストニュース配信の試行に合わせ，イランとベルギーで運営されている外部のペルシャ語ポータルサイトにPRバナーを設置し，ラジオ日本・ペルシャ語ページへの誘導を図った。

**（２）イベント開催**

NHKワールド・ラジオ日本のさらなる認知度向上と新規リスナー獲得のため，国交樹立や放送開始などの節目の年に当たる国や地域を中心に，番組関連のイベントを開催した。

戦後放送再開から60周年を迎えたインドネシア語放送とタイ語放送では，９月にバンドンで，11月にはバンコクで「リスナーの集い」を開催し，インドネシアで100人，バンコクでは240人を超える観客を集めた。また，10月には日本とベトナムの国交樹立40周年を記念して，ベトナム語放送の公開収録をベトナム最大の都市ホーチミン市で行った。中国語放送では11月，日中平和友好条約締結35周年を機に，湖南省長沙で日本語スピーチ大会を行った。日中関係が冷え込んだ時期にもかかわらず，会場には100人を超えるリスナーが集まり，日本語の実力を競った。

イベントの様子は後日，それぞれの言語放送の「リスナーとともに」などの枠で特集として放送された。

### ３．NHKワールド全般　紙媒体等の展開

**（１）紙媒体**

NHKワールドの全体像を紹介する「ガイドブック（英語・日本語）」，在外邦人向けの「かんたんガイド」，NHKワールドTVの番組表と番組内容を紹介する冊子，ラジオ日本の周波数表などを作成し，国内外のNHKほか，政府機関･民間企業･各国日本人会などに送付し，NHKワールドのPRに努めた。送付先へのアンケートを２回実施し，要望などを収集。よりよい情報提供計画の立案につなげていく。なお，すべての印刷物データはウェブサイトにて公開し，ダウンロード可能とした。

**（２）汎用印刷物**

アプリなどNHKワールドのウェブサービスを紹介するもの，具体的なダウンロード方法を説明するものなどを適宜作成し，イベント会場などで活用した。

**（３）「第32回NHKワールドカレンダー」フォトコンテスト**

12年度に引き続きNHKサービスセンターと共催した。開催告知スポットは総合テレビなどで編成され，国内でのNHKワールドの認知度向上に寄与。13年度には3,755点の応募があり，25点を受賞作品に選定した。受賞作品はNHKサービスセンターが制作する壁掛けカレンダーと卓上カレンダーのほか，受信報告に答えるためのベリカードなどに使用した。カレンダーは，各国大使館・領事館，海外の放送局，日系人協会，日本人学校などに配布し，NHKワールドのPRを行った。

**（４）「春の新生活応援キャンペーン」への情報提供**

広報局などが実施するPRキャンペーンに語学ツールとしての切り口でNHKワールドのサービスを紹介。新聞記事，大学向け冊子，スマートフォンのサイトなどに掲載された。

**（５）NHK出版語学テキストへの広告出稿**

14年３月，国内の外国語学習者を対象にNHK語学講座のテキスト20誌に広告を出稿した。

### ◇モニター

13年12月現在，テレビ番組モニター45か国123人，ラジオ番組モニター31か国53人，ラジオ技術モニター39か国52人という体制である。

## Ⅱ．反　響

### ◇反響の周知と活用

**（１）投書数**

NHKワールド・ラジオ日本への13年度の郵送・Eメール・SMSによる投書数は４万1,852件で，12年度と比べて，2,449件の減となった。

NHKワールドTVへの13年度の海外からのEメール等での投書数は7,873件となり，12年度と比べて1,207件の増加となった。

**（２）反響の活用**

「NHKワールドTV宛Eメールウイークリーリポート」「テレビ番組モニター反響メモ」を週１回まとめるとともに「NHKワールド・ラジオ日本投書概況」「ラジオ日本モニター報告」「NHKワールドTV海外番組モニター報告&反響」を月１回まとめている。これらは，国際放送局の各番組担当者にフィードバックし，放送の質のさらなる向上に役立てている。

## 技術・施設

### Ⅰ．テレビの送受信

NHKワールドTVは，英語による「外国人向けテレビ国際放送」で，09年２月に専用スタジオを設け24時間毎正時ニュースを放送している。09年12月には，標準画質の放送に加え，ハイビジョンによる放送も開始した。放送はノンスクランブル（無料）で，インテルサット社の３つのCバンド衛星を使い，ほぼ全世界をカバーしている。受信には直径2.5メートル程度のパラボラアンテナが必要なため，NHKでは，小型のアンテナで受信できる放送衛星（Kuバンド）や地域のCATV，IPTVなどを通じて，より簡便に視聴できるよう受信環境の整備を進めている。13年度末には，25機の衛星でおよそ140か国のエリアをカバーし，約２億7,700万世帯で視聴が可能となった。

NHKワールド・プレミアムは，NHKワールドTVと同じ３つのCバンド衛星で，海外のCATVや衛星放送局などの放送事業者にNHKの番組を有償で配信し，各事業者が提供する日本人向けのテレビチャンネルである。

テレビジャパンは，北米NCMA社（NHK Cosmomedia America, Inc. ニューヨーク）と欧州NCME社（NHK Cosmomedia Europe Ltd. ロンドン）２社が，放送衛星（Kuバンド）等を使って91年から実施している有料の邦人向けサービスである。NHKや民放の番組にスクランブルをかけて放送している。

NHKワールド・プレミアムとテレビジャパンを使って，１日およそ５時間，ノンスクランブルの「邦人向けテレビ国際放送」を実施している。

### Ⅱ．ラジオの送信

13年度，NHKワールド・ラジオ日本は，放送対象地域のメディア状況に即した，一層効率的で効果的な送信体制への移行を進めた。短波については，13年度前期，日本の八俣送信所と12の海外中継局から送信していた体制を，13年度後期には八俣と11の海外中継局とした。また，中波・FM波による中継放送を９つの国と地域で行った。（図）

**○八俣送信所**

送信機６台（300kW：５台，100kW：１台），アンテナ18式（カーテンアンテナ：15式，水平LPアンテナ：３式），25方向で送信。ラジオ国際放送を，前期は１日44時間10分，後期は１日43時間40分送信した。

**○海外中継**

**（１）イギリス中継放送**

92年７月１日，スケルトン送信所などの500kW送信機などを借用し放送開始。13年度は，前期，欧州向けに１日30分の送信を実施した。

**（２）シンガポール中継放送**

96年４月１日，クランジ送信所の250kW送信機などを借用し放送開始。13年度は，東南アジアおよび南西アジア向けに，前期は１日６時間15分，後期は１日５時間30分の送信を実施した。

**（３）アセンション中継放送**

95年４月１日，アセンション中継局（大西洋・英領アセンション島）の250kW送信機などを借用し放送開始。13年度は南米向けに，前期は１日２時間30分，後期は１日２時間の送信を実施した。

**（４）ダバヤ中継放送**

03年４月１日，ダバヤ送信所（アラブ首長国連邦）の500kW送信機などを借用し放送開始。13年度前期は，南西アジア向けに１日45分，後期は欧州および南西アジア向けに１時間15分の送信を実施した。

**（５）フランス中継放送**

08年３月30日，イスーダン送信所の500kW送信機を借用し放送開始。13年度は，中東・北アフリカおよびアフリカ（中部，西部，南部）向けに１日10時間30分の送信を実施した。

**（６）ドイツ中継放送**

08年３月30日，ヴェルタハタル送信所などの500kW送信機などを借用し放送開始。13年度は，中東・北アフリカ向けに１日４時間の送信を実施した。

**（７）ウズベキスタン中継放送**

09年３月29日，タシケント送信所の100kW送信機を借用し放送開始。13年度は，中東・北アフリカ，南西アジア向けに，前期は１日１時間45分，後期は２時間15分の送信を実施した。

**（８）リトアニア中継放送**

10年３月28日，シトクナイ送信所の100kW送信機（短波）を，11年３月27日には500kW送信機など（中波）を借用し放送開始。13年度は，欧州向けに，短波は１日30分，中波は前期１日30分，後期は１時間の送信を実施した。

**（９）マダガスカル中継放送**

10年３月28日，マダガスカル送信所の250kW送信機を借用し放送開始。13年度は，アフリカ（東部，中部，西部）および南西アジア向けに１日３時間の送信を実施した。

**（10）パラオ中継放送**

12年３月25日，パラオ送信所の100kW送信機を借用し放送開始。13年度，東南アジア向けに１日２時間の送信を実施した。

**（11）アメリカ中継放送**

12年８月12日，サイプレスクリーク送信所の250kW送信機を借用し放送開始。13年度は，南米向けに，前期は１日１時間30分，後期は２時間の送信を実施した。

**（12）南アフリカ中継放送**

13年４月１日，メイヤートン送信所の250kW送信機を借用し放送開始。13年度，アフリカ（中部）向けに１日30分の送信を実施した。

**（13）インドネシア中継放送**

09年３月29日，インドネシアのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。13年度は，首都ジャカルタなど計36都市で１日45分の送信を実施した。

**（14）ヨルダン川西岸中継放送**

09年４月26日，パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区のFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。13年度は，ラマラで１日30分の送信を実施した。

**（15）アフガニスタン中継放送**

10年３月28日，アフガニスタンのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。13年度は，カブール，ヘラートの２都市で１日30分の送信を実施した。

**（16）バングラデシュ中継放送**

10年10月31日，バングラデシュ国営FMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。13年度は，首都ダッカなど計７都市で１日45分の送信を実施した。

**（17）タンザニア中継放送**

12年３月25日，タンザニア放送協会（TBC）のFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。ダルエスサラームなど計23都市で１日30分の送信を実施した。

**（18）ブラジル中継放送**

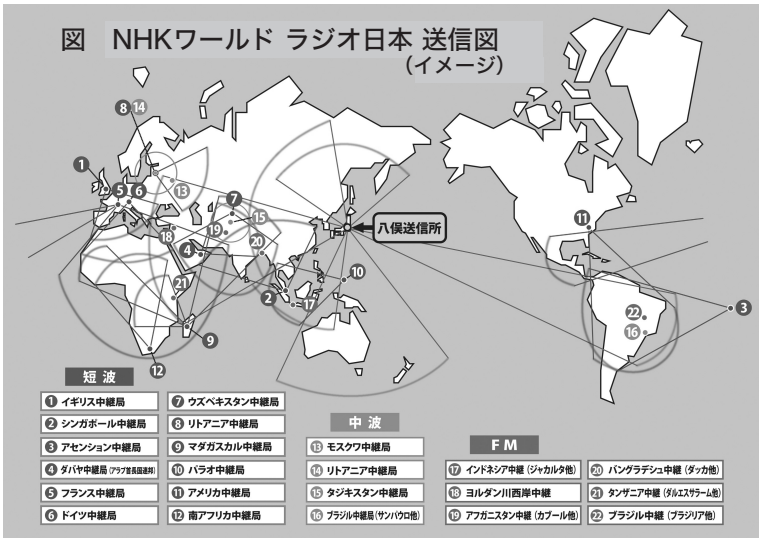
13年４月１日，ブラジルの中波・FMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。サンパウロなど計４都市で１日30分の送信を実施した。

**（19）モスクワ中継放送**

09年３月29日，ロシア国営送信会社の10kW送信機（中波）を借用し放送開始。13年度は，モスクワ市および周辺地域向けに１日１時間の送信を実施した。

**（20）タジキスタン中継放送**

11年３月27日，国営タジキスタン送信会社の300kW送信機（中波）を借用し放送開始。13年度は，欧州，中東・北アフリカおよび南西アジア向けに１日１時間45分の送信を実施した。




（2014年3月末現在）